
教育総合センター

だより

NO. 113

平成 21. 9. 1

『待つこと』

尼崎市立武庫南小学校
校長 山下 秀男



「私たちには時間が無いのです。」

あと数ヶ月で現職の教師になる予定の大学4年生の時のことです。『待つこと』の大切さについて講義を始められた教授に対し、具体的な教科指導方法のあり方等、すぐに現場で使える内容を望んでいた私たちが代表して、意見を述べました。今から思えば、若気の過ちとは言え汗顔の至りで、よくも生意気に言ったものだと思出す度に後悔しています。

その後、赴任した園田北小学校で『待つこと』の大切さをしっかり叩き込まれることになりました。その小学校は創設以来、放送学習を実践研究している学校で、テレビを生で丸ごと、教科指導と平行の形態で視聴し、その後の話し合い活動により、「自ら求め働きかける子どもの育成」を目指していました。つまり、放送内容を資料として、教師主導で行う学習ではなく、教師はあらかじめ視聴せずに、子どもと共に初めて見ながら、話し合いをさせ、放送テキストのねらいに近づけていく学習展開でした。大事なシーン等にかかわらず、浅い視聴でねらいから少しはずれた意見に対し、あせってつい口を出し、話の腰を折り、流れを変える失敗を何度もしました。

ある日、同じような場面で、待ちきれず強引に話し合いの中に割って出ようと思った矢先、タイミング良く子どもからねらいにせまる発言が出ました。まさに天使が舞い降りたようで、その時「待っててよかった」とつくづく実感しました。『待つこと』を合言葉の一つにして、当時の職員は研究実践を重ね、数年後、応募した実践論文が、文部大臣賞（学校賞）の榮譽に輝くことになりました。

現任校では、算数科を研究教科にして、外部講師の指導助言を仰ぎ五年目を迎え、年々研究は充実しています。教師主導型でなく、子どものささいな発言やつぶやきも大切にし、授業を展開するスタイルは、まさに我が意を得たりの感じがしております。

大学時代の苦い思い出を省みますと、「やるべきことをやって子どもを育てておれば、後は信頼して、結果を『待つ』」心の余裕こそが、私たち教育者には必要であると強く思い、日々教育活動に携わっているところです。

☆☆☆☆☆ 1年目教員必修研修(人権教育)を終えて ☆☆☆☆☆

「あーよかったな あなたがいて」一つながりと感動を合言葉にー

1 はじめに

尼崎市は、本年度より中核市に移行し、県教育委員会主催の研修のうち、法定研修を教育総合センター主催で実施することになりました。1年目教員必修研修の人権研修では、尼崎の教育・歴史や子どもの事例をもとにした人権教育を実施し、人権感覚と人権意識を養成しています。

2 研修の内容

「これからの人権教育」として、子どもや保護者とのかかわりを中心にご自身の体験を教育サポーターの仲島正教氏に講話していただきました。

- 教師力とは、子どもを躍動させる力である。(子どもは目標を持ち未来へ向かう)
- 人権教育とは、学級で厳しい状況の子どもが目を輝かせる授業を考えること。人と人との温かいつながりを感じること。
- 「優しい」という字は「憂い」(寂しい、辛いとき)に人が寄り添う意味。「優しさ」は心の銀行に貯金をして、辛いときに出すことができる。
- 子どもは人とのかかわりから、自分・友達・学級に気づくことができ、(人間)関係を築くことができる。
- 差別を無くすためには差別について「知る」「怒る」「つながりと感動」が必要である。
- 差別の冰山を崩すために、海水の温度(人権意識)を高めていくことが大切である。

この他にも、これまでの経験から、「教育とは『今日行く』こと」や「いい話の家庭訪問」等、様々な実践を話されました。

3 研修を終えて

本研修の受講者アンケートの中から感想の一部を紹介します。

- 「教員はいつも元気に、細かな所まで気を配り、子どもにとって温かい存在であるべきだと思った。」
- 「子どもが『自分は必要とされている』と思うことが自尊感情を育むスタートだと思った。」
- 「人との出会いが人を育てるということを感じた。『いてくれて、ありがとう』と言うことのできる人間でありたいと思う。」
- 「今日聞いた話を二学期から実践していきたいと思う。」
- 「仲島先生のお話を聞いて、もっとたくさん子どもと遊びたくなりました。」

4 おわりに

今回の研修(人権教育)では、様々な実践例を紹介しながら、子どもや保護者とのかかわりや人権意識について、わかりやすく講話していただき、また、心の貯金もしていただいたように思います。先生方の今後の取り組みに役立てば幸いです。

(研修担当指導主事 寺田 忠司)

☆☆☆☆☆ 特別支援教育に願うこと ☆☆☆☆☆

1 子どもの心に寄り添う

「先生、ぼくいつになったら歩けるのかな?」、肢体不自由養護学校の教育実習で、当時小学校2年生の男の子に質問された言葉を今でも鮮明に覚えています。

皆さんならどう答えますか?

学生だった私は冷や汗をかきながら「先生の言うことを聞いて頑張ったら…」と言ってその場を過ぎた記憶があります。

困っていること、悩んでいることを表現し相手に理解してもらうことができれば、次の手立てを考えることは可能です。しかし、言語表現や伝達手段に課題がある場合は、まず相手に理解してもらうことが大切になってきます。

これは、障害の有無にかかわらず、現在の教育が抱える課題でもあると言えるのではないのでしょうか。

2 障害をどう捉えるか

平成8年8月に、カナダのバンクーバーで開かれた障害児者のコミュニケーション支援に関する世界大会に参加し、重度重複障害児のパソコンの活用についてポスター発表を行いました。その時、機能的に言葉が発せられない人も、音声発声装置(コミュニケーション機器)を手に世界各国から電動車いす等で参加されていました。つまり、工夫することでその人の持つ課題や苦手な面を改善することは可能なのかも知れません。

WHO(世界保健機関)は、障害の捉え方を、「疾病等に基づく個人の様々な状態をインペアメント(機能障害)、ディスアビリティ(能力障害)、ハンディキャップ(社会的な不利)」の概念を用いて分類していましたが、平成13年に「人間の生活機能を『心身機能・身体構造』『活動』『参加』の3つの要素とし、その生活機能に支障がある状態を『障害』と捉える」との考え方を発表しました。

つまり、取り巻く環境や関わり方が大きく影響するとの考え方です。

3 子どもの幸せのために

平成19年4月、障害児教育から特別支援教育への変換で、教師を含めた大勢の人の意識は変わりました。しかし、子どもの姿が変わったわけではありません。

校内委員会の設置、個別指導計画の作成等、形としての特別支援教育は整備されてきましたが、形を作ることが目的ではないことを再認識することも必要でしょう。様々な課題を抱えた目の前にいる子どもたちの実態を把握し、心に寄り添い、将来に向けてどう成長を支えていくのかを考えて教育していくことがさらに重要であると認識しています。

冒頭での問いに、今の自分だったらどう答えるでしょう。医療的な見地から歩行は困難と言われても、歩く練習を止めようとは言わないと思います。「先生と一緒にがんばろうね。」と答えるでしょう。立つ練習や歩く練習をすることで、子どもの意欲が高まることを私自身、数多く経験してきたからです。結果として歩けるようになればこんなに素敵なことはありませんが、その過程で、結果よりももっと大切なことを子どもたちは学ぶはずです。まさに『生きる力』であり、これこそ教育の原点ではないのでしょうか。

障害の有無にかかわらず、同じ社会で育っている子どもたちです。個々によって課題の違いはありますが、特性等を理解しつつ、気持ちを共感し、子どもたちの将来を支えていくことこそが特別支援教育の理念であると私は考えています。

質問をしたあの男の子が、今は立派な青年となり、車いすで表情豊かに生き活きと活動する様子を時々見かけ、当時を思い出して幸せを感じています。

(特別支援教育担当指導主事 小寺 英樹)

【教育情報コーナーへどうぞ】

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議にお見えのときなど、ぜひお気軽にお立ち寄りください。また、資料の紹介やお問い合わせなどにおこたえしております。担当までお声をおかけください。

オススメの本を紹介します。

『新版 心をつかむ話し方～うまい先生へたな先生』

関根 正明 著

『新版 叱り方～うまい先生へたな先生』

関根 正明 著

話し方、聞き方、叱り方と、どれにも「方」がついていますが、本書はたんなるマニュアル本ではありません。教師は、「話すこと」「叱ること」を通して自省し、生き方をも考えていかねばならないことがわかります。先生として必読の本です。

『教科書教材で出来るPISA型読解力の授業プラン集』

有元 秀文 編

今話題の“PISA型読解力”とは何？ 授業に取り入れるには具体的にはどうしたらいいの？ 単元計画や発問についても知りたいけれど等々……

教科書に載っている教材を使ってPISA型授業についての実践例を、見ることができます。

『運動会指導のすべて てんこ盛り事典』

根本 正雄 編

いきなり運動会の担当になったら一。どんな競技や種目があるのか？子どもの入場は？応援団は？さまざまな問題が起こります。種目名・種目のあらまし・準備物・指導のポイント・演技を盛り上げる小道具まで解説しています。

『あったか言葉とチクチク言葉』

佐藤 拓 著

〈あったか言葉〉とは一心の大切な宝物、友だちづくりの言葉、毎日が良い気持ち。

〈チクチク言葉〉とは一心のろうそくが消える、ドライアイスより冷たい気持ちになる。

〈あったか言葉〉の実践に取り組む教師と子どもたちの活動を追ったノンフィクション。

『優劣のあなたに一大村はま60のことば』

苅谷 夏子 編

国語教育の偉大な実践者であった「大村はま先生」が亡くなられてからもう4年。

その多くの著作の中から、胸に響くことばを集めています。その一つ一つは、どれも、迫力があり、深い知恵と技に満ち、それでいて優しく、後に続く先生方を励ましています。

(情報コーナー担当・幾田)

開館時間ご案内

平日 午前9時 ～ 午後9時

《ただし、教育相談および視聴覚ライブラリーは午後5時15分とします》

なお、次の日は取り扱いいたしません。【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行 尼崎市立教育総合センター

尼崎市三反田町1丁目1番1号(TEL.06-6423-3400)

発行者 平垣 新一

題字 尼崎市教育委員 岡本 元興